

実践報告 北海道札幌新川高等学校

(1) 研究内容

研究課題：「子どもの権利に関わる学習活動」

- 自分たちに関わる地域の諸課題を、自ら考え、責任を持って行動し、解決していくことを通し、子どもの権利としての、社会参加意識を高め、自発的な態度を涵養する。
- 小中高の3つの校種が連携し、地域とともにボランティア活動に取り組んでいく中で、互いの立場や意見を尊重し、幅広い視点で物事を考え、自分の言葉で表現する力を育成する。
- 近い年齢の他者との対話を通し、自己の内面に迫り、自尊感情を高め、自己及び他者を尊重する態度を涵養する。

(2) 実践内容

【実践①】「カタリ場（大学生と対話型のワークショップを実施しながら、将来の在り方・生き方を見いだしていく「動機付けキャリア学習プログラム」）：自他を尊重する態度の涵養

○ねらい

- ・ 自尊感情を高め、自己と他者の人権を尊重する態度を涵養する。

○学習内容

- ・ 2年生に実施される「カタリ場」を通し、近い年齢の他者との対話から自己の内面に迫るとともに、将来の在り方・生き方について深く考え、他者の考えや在り方・生き方を尊重する態度を育成する。

【実践②】「新川地区学校・地域連絡協議会」：近隣の児童会・生徒会と連携し、様々な意見や考え方を取り入れながら、自分たちの住む地域の課題解決を図ろうとする自発的な態度の育成（連携協力校：新川小学校 新光小学校 新川西中学校）

○ねらい

- ・ 新川高校生徒会が中心となり、近隣の児童会・生徒会や地域と連携するための組織を立ち上げ、小中高それぞれの課題意識をもって地域の課題解決に取り組み、貢献していくことを通し、他者の立場や意見を尊重し、自ら考え行動する態度を育成する。



○学習内容

- ・ 昨年度の札幌市立高校生徒会の8校ボランティアで得た成果をもとに、地域のまちづくりセンターや町内会の協力を得ながら、近隣小中学校と連携し、地域の課題を調査し、自分たちの住む地域を自分たちでより良いものにしていこうとする実践的な態度を育てる。地域の公園の落ち葉ひろいなどボランティアを中心とした体験的な活動を実施した。



【具体的な取り組み】

(1) 地域の危険マップ作成

- ・ 地域の危険箇所、地域での見守りが必要な場所などを調査しての地域マップ作成。

(2) 落ち葉ひろいボランティア

- ・ 新川高校生徒会が毎年行っている、秋の落ち葉ひろいを4校で実施。

(3) 地域が笑顔になる標語づくり

- ・ 小中学生が作成した標語を地域マップと関連させながら、児童会館、コンビニ、学校等に掲示し、事故やいじめのない地域づくりに役立てる。



(3) 研究のまとめ

① 成果

「カタリ場」を通し、自己の内面を深く考察し、自己の在り方、生き方について考え、表現する機会となった。また、自他の存在をかけがえのないものとして尊重する態度が身に付いた。

様々な年齢構成による連絡協議会を中心となって運営し、地域の課題解決に積極的に取り組むことで、子どもの権利としての社会参加や高校生としての自発的態度を身に付けることができた。

小中高の3校種及び地域の方々と会議

し、実際に足を運び現地を調査するなどの体験を通し、異なった年齢の集団で活動する場合の見方や考え方を学ぶとともに、より良い社会の実現を目指し、できることから社会に貢献していこうとする態度を身に付けることができた。



②課題

「カタリ場」については費用の問題があり、継続が困難となった。

3校種4校による地域ボランティアは、各校の理解が得られ大変有意義なものとなったが、時間調整等に課題が残った。

③提言「人権教育のすすめ」

高校生だけではなく、小中学生から大人までの幅広い年齢の人々と地域の課題を考え解決しようとする活動のなかで、自分たちより小さい子どもたちの立場を思いやり、大人の意見に耳を傾けコミュニケーションを図る良い機会となった。これらの活動を通じ、社会に貢献することの意義に気づき、自分たちが役に立っているという実感と喜びを得ることができた。それは、自己の価値や存在の大切さを学ぶことであり、自分や他人を大切にすることを育てることに大きな効果がある。